

## 第3学年 保健体育科学習指導案

3年4組 男子21名 女子18名 計39名  
指導者 松田 匠

【授業】13:10～14:00 会場 体育館（1階）  
【協議会】14:15～15:25 会場 技術室（1階）

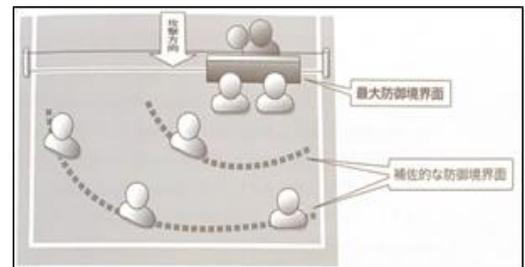
### 1 単元名 球技/バレーボール

### 2 単元について

#### (1) 単元設定の趣旨

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。バレーボールは、ネットを挟んだ相手チームと限られた触球回数の中でボールを床に落とさずに打ち合うネット型の球技であり、攻守の切り替えが非常に速く、瞬時の判断力やチームの連携が求められるスポーツである。また、ゲーム性の視点から捉えるならば、ボールを目標地点、あるいは空間に移動させることによって得点するタイプに分類され、相手のミスを含む相手コートにボールを落とすことによる「意図的ラリーの中断」が競り合われる種目と言える。そのような競り合いに勝つ突破型ゲームの競争課題として、鈴木ら<sup>1)</sup>は「ボール・プログレッシングを目論むオフenseにとっては、この防御境界面を打ち破ることがゴールを得るために不可欠な課題となる」としている。

「ボール・プログレッシング」とは、ゴール獲得をめざすオフenseがボールを前進させようとする行為を指す。それに対し、防御側が「ボール移動を阻む防御壁」として機能することで、防御境界面の形成と突破という競争課題が生まれる(図1)。従来の保健体育科教育においてゲーム領域の指導は、ボール操作する生徒の技術指導に重きが置かれてきた。しかしながら、ゲーム中にボール



<図1 防御境界面について>

を操作する時間の割合は、ボールを操作しない時間と比較してごくわずかである。この事実に着目したときボール操作するときの技術のみに、課題意識をもつことが、生徒の状況に応じた適切な運動能力を高めることにつながるとは限らない。先行研究では、「ゲーム中の状況に応じた動きを高めていくには、ボールを操作しないときに「いつ」「どこへ」動けばよいのかを適切に判断することが大切」とされ、そのためのサポートの仕方(位置の取り方・体の向き・動く方向・動くタイミング・動くスピード等)を適切に指導することが重要とされている。これらのことから、生徒が課題意識をもちやすいボール操作時の技能を高めるためには、その準備段階である「ボールを操作しないときの動き」に着目し、課題解決を図ることが重要である。そうすることで、最終的にレシーブやトス、アタックといった技能の向上を実感できるようにしたい。

本校保健体育科では、保健体育科の「見方・考え方」には、「特性的な見方・考え方」と「価値的な見方・考え方」の側面があり、これは決して相反するものではなく、2つの軸が相互に関連し合って目指すべき姿である「豊かなスポーツライフの実現」に向かうと考えている。バレーボールで例えるなら、「特性的な見方・考え方」とは、主に技能やルールに当たる、レシーブやトス、アタック、ボール操作をしないときの動き等である。一方で「価値的な見方・考え方」とは、バレーボールをする上で必要な心情の側面である。公正に取り組む、互いに協力する、一人一人の違いを大切にすることなどの意欲を指している。そこで、本単元では、バレーボールの楽しみ方を探究する活動を

通して、一人一人の違いを認め合う「共生」の視点を養いながら、「価値的な見方・考え方」の高まりを実感させ、バレーボールの特性や魅力を獲得していく単元構成になるよう設定した。

## (2) 生徒の実態

本学級の生徒は、体育の授業に対して意欲的に活動する生徒が多く、与えられた課題に対して主体的に解決しようとする姿がよく見られる。第1学年では、必要な技能をレシーブとトスの2つに絞り、ラリーゲームを行った。第2学年では、すべての生徒がアタックで得点できるように、キャッチバレーを取り入れ、戦術的な学習を中心に行った。

アタックは攻撃行為全体を示す用語であることから、生徒全員が3段攻撃の最後に当たるボール・プログレッシングにおいて、スパイクやフェイント、プッシュなど「相手コートに返す意図のあるプレイ」に挑戦できるよう、計画的に指導を行った。生徒は、助走～踏切～空中局面～インパクトまでの一連の流れを意識してスパイクに挑戦する者や、空中に上がったボールにタイミングよく手のひらでインパクトするスタンディングアタック、ネット際に上がったボールを体をうまくひねりながら片手で相手コートに押し出すプッシュなど、それぞれの能力に応じて技能の習得を目指してきた。

単元後半では、レシーブやトスを用いながら3段攻撃を目指し、技能の向上を図ってきた。一方で、レシーブ時に一步遅れてしまい、適切な姿勢が取れずにボールが逸れてしまう場面や、味方同士の間でボールが落ちてしまう場面が散見された。また、相手コートにボールがある際の自チームのバランスのとれた陣形について、十分に気付くことができていなかった。

ボールを操作しないときの動きの重要性については、昨年度のバスケットボールの学習を通して、空間の使い方に関する学びを深めてきた。ゴール前にうまく侵入するためには、ボールを持っていない味方選手が空間を空ける動きを行うことで、相手ディフェンスをおびき出し、ゴール前にスペースを生むことができるという気付きがあり、チームで連携して得点する戦術について理解を深めることができた。

そこで本単元では、ネット型ゲームにおける「ボールを操作しないときの動き」に着目して学習を進めていく。特に、相手チームがアタックをする際には、基本的な守備の陣形から、防御境界面を形成する動きが必要になる。そこで、「相手の守備陣形を崩したアタックを打つ」という課題と「相手のアタックを防ぐには」という対立した状況を生み出すために、第2触球にキャッチ&スローを取り入れる。攻撃側は「相手の守備陣形を崩す動き」が要求され、より戦術的なアプローチが可能となる。また、守備側は、相手の第2触球に時間が生まれることから、ボール操作をしないときの立ち位置や陣形を形成する必要性が生まれる。こうした動きの質が高まることで、この先のレシーブ、トス、アタックなどの戦術的な考え方をより明確なものにしていくことに気付かせながら、味方のプレイを助けるためのポジショニングや、攻撃に備えた準備動作、守備時のカバーリングなど、ただボールを扱うだけでなく、仲間との連携で意味のある動きができるようにすることを、学習内容の軸に据えて展開していく。

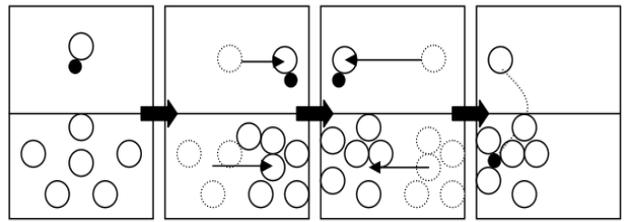
また、本単元を進める中で、生徒同士が互いの強みや個性を認め合い、どのようにチーム貢献ができたか自己・他者評価を繰り返しながらゲームを構築していく学習を行う。ボールを操作する場面だけでなく、ボールを操作しない場面にも積極的に目を向けること、多様性を受容し、他者とともによりよい関係を築こうとする共生の視点を踏まえた生徒の姿にも期待したい。

## (3) 指導の構え

### ① 定位置を示す個人マーカーの活用

学習指導要領には、「定位置に戻る動き」の重要性が示されている。バレーボールの最大の目的は、防御境界面を突破し、相手コートの空間にボールを落とす「意図的なラリーの中断」である。ボールを保持することのないバレーボールでは、プレイは主に「ボールを弾く動作」によって展

開され、その都度、ボールの位置が大きく変化する。先行研究では「バレーボール学習の初期の段階では、相手からの返球の球筋は、ストレート（ネットに対して垂直）が圧倒的に多いことが特徴」とされている（図2）。そのため、選手自身の立ち位置も

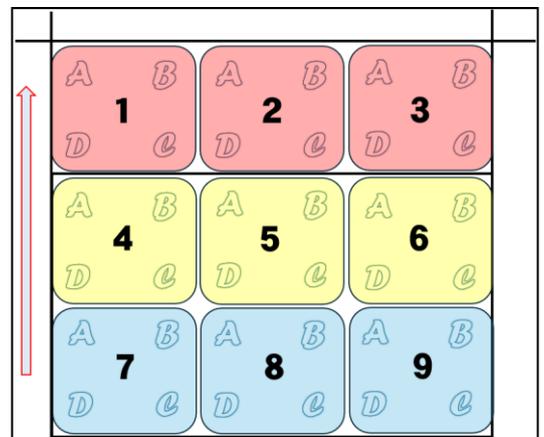


<図2 ボールの場所に応じた立ち位置>

常に変化させる必要がある。そこで、コート内に各ポジションに応じた定位置を示す個人マーカーを活用し、生徒が「自分の基本的な立ち位置」を意識できるようにする。この「基本的な立ち位置」とは、どこにボールが来ても、自分が適切にボールを弾くことができる位置を指す。立ち位置の自覚を促すことで、ボールを操作しないときの準備や、ゲーム展開に応じた素早いポジショニングの意識づけを図る。

### ② 落球ゾーンを示したコート分割図

ボールを持っていないときの動きの質を向上させることは、レシーブやトスの準備時間を確保し、より正確に味方へボールをつなぐうえで不可欠である。そこで本単元では、相手コートから返されたボールが自コートに落ち、失点に至った場面の分析を行う。具体的には、コートをもとに9分割×4方向の36分割したゾーンに相手のどのような返球が自コートのどこに落ちたのかを記録する（図3）。そのときボールを持っていなかった選手の配置や動きが可視化され、チームの課題発見につながる。また、より正確なトスやレシーブを行うためには、インパクトの瞬間までにどのような準備ができていたかに着目することが重要である。この分析活動を通じて、ボールを持っていないときの動きの質を高める意識を育てるきっかけをつくることができる。



<図3 36分割した落球ゾーン>

### ③ チーム貢献プレイについての振り返りと映像の蓄積

バレーボールの特性として、個々の技能だけでなく、チームへの貢献が得点につながりやすいという点が挙げられる。このように、比較的得点を獲得しやすい競技特性は、生徒の運動有能感を高める上で有効であり、学習意欲の向上にも寄与する。本単元では、生徒一人ひとりが「チームに貢献できた」と実感できるプレイを短くトリミングし映像として記録・蓄積していく活動を取り入れる（図4）。これにより、生徒は自身のプレイを客観的に捉えることができ、自らの良さや役割への気づきを深めることが期待される。また、選んだシーンについてその選定理由を記述させることで、スパイクやレシーブといった直接的な技能の振り返りとどまらず、ラリー中のポジショニングや声かけなど、ボールを持たない場面での働きへの理解を促すこともねらいとする。このような活動を通じて、生徒の主体的な学びとチーム意識の醸成を図るとともに、単元を通じた自己有用感の高まりを目指す。

| 名前                                      | 名前  | 名前   | 名前  | 名前   |
|---|---|--|---|--|
| よいと思った動き                                | 良い動き  | 良い動き   | よい動き  | 良いと思った動き   |
|   |   |  |   |  |
| 解説<br>松本さんがダブルチームされているときに、ヘルプ(?)に行っている。 | ビボットをずいぶん高い開行い、より相手ゴールに近い距離にパスをすることができた。後ろに回すこともできたが、この試合で得意があまり出れていないことを考えると、とにかく攻める体制をとったのは多量なが間違っているとは思えない。相手はボールをパスした後すぐに取られてしまったので、後ろに回しても良かったのかもしれない。 | 最初は小宮さんのディフェンスをしようとしていたが、途中で一番パスしそうな人がノーマークなことに気がついたのでそっちの方をディフェンスしようとした。結果、パスをカットすることができた。(他に余裕なかつた可能性もあるけれど) 判断が早かった | 中屋のドリブル中にボールを取ろうとした。弾くだけになった。強くなった。それによって、もしかしたら相手ボールのままになっていたかままだけど、結果的に自分ボールになった。 | 自分のところにボールが来たから、確実に味方にボールを運ばせようとならう。そうなるように向かってパスすることができた。パスのときもパスカットするべく高めるところにボールを上げることができた。 |

<図4 チーム貢献プレイを蓄積するチームスライド例(昨年実践参考)>

④ 共生の視点を育むチームワークについての発問

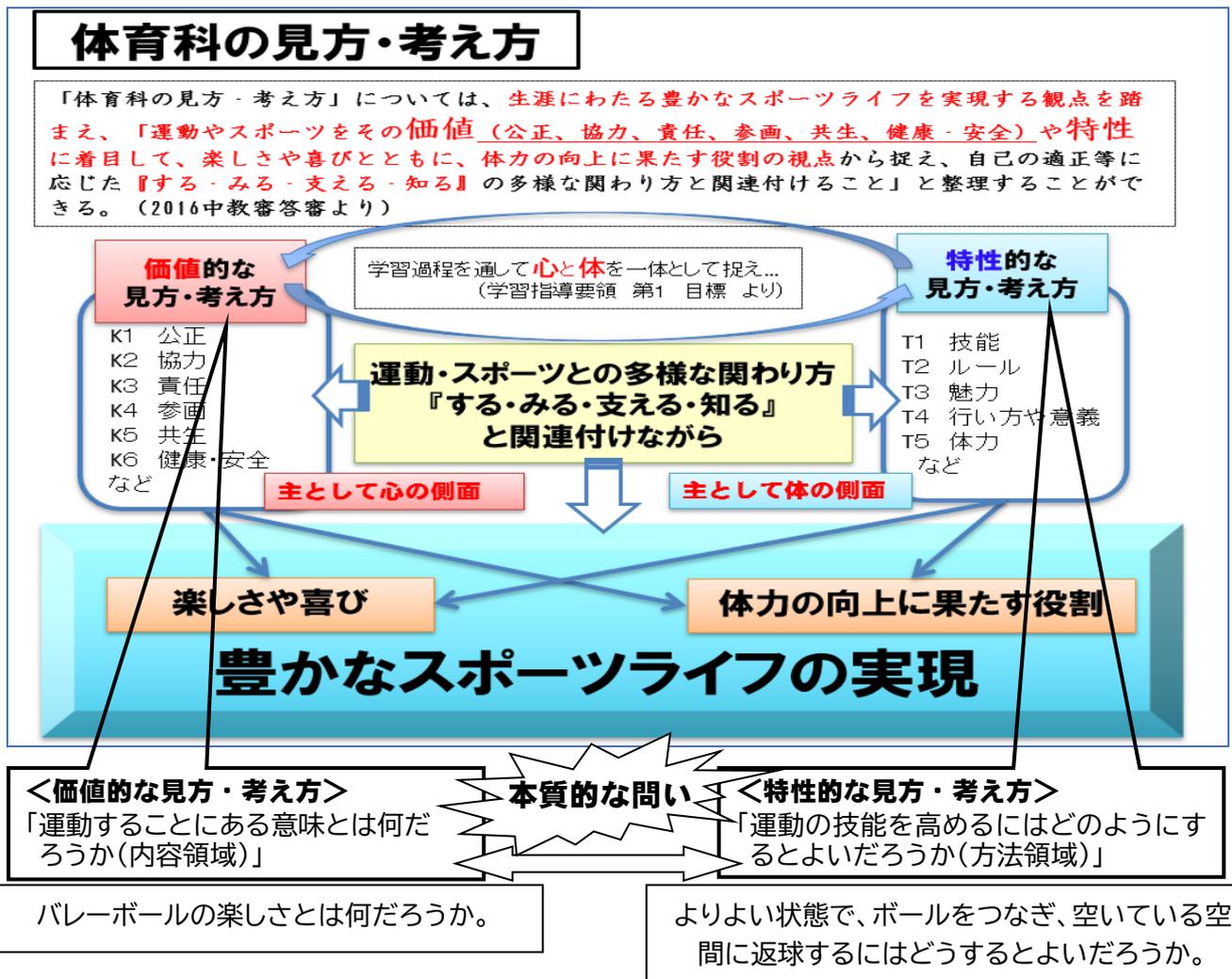
ミドゥラら<sup>2)</sup>は「チームワークとは、競争を通して課題に取り組みながら、チームのメンバーが協力し合い、強い絆で結ばれることを意味する」と述べている。また、三崎<sup>3)</sup>は、「誰一人見捨てないことを大切に授業では、子ども同士の関わりが活発になり、人間関係が改善され、コミュニケーションも豊かになる」としている。さらに、保健体育科の学習指導要領解説では、「一人一人の違いに応じたプレイを大切にすることや、互いに助け合い、教え合おうとする姿勢が、学びに向かう力や人間性を育む上で重要である」と示されている。これらの考えを踏まえると「共生の視点」に基づく問いを学習内容に組み込み、それに沿って指導することは、誰もが楽しめるバレーボール授業の実践につながると考えられる。そのため、上記で述べたチーム貢献プレイの共有に加えて、共生につながる「問い」を単元全体に位置付けることが必要である(図5)。チームワークを高めるためには、生徒自ら「何が必要か」を考え、理解し、それを行動や言葉として表現できるようにすることが求められる。技術的・戦術的な課題の解決を目指す戦術アプローチの学習過程を活用し、共生の視点に立った発問を通して、生徒一人ひとりの違いを認め合い、誰もがバレーボールを楽しむ姿に期待したい。

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| ・誰もがバレーボールを楽しむためには何が必要ですか。     |   |
| ・チームワークを高めるためには、どのような行動が大切ですか。 |   |
| ・仲間のいいところはどこですか。               |   |
| ・ゲーム中の声掛けで大切なことは何ですか。          | 等 |

<図5 単元に位置付けた共生の視点を踏まえた発問例>

3 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

(1) 保健体育科が掲げる運動の本質的な問いとの関連



## (2) 深い学びが実現している状態

学習指導要領解説では、保健体育の見方・考え方について「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点で捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わりと関連付けること。」と記述されている。そこで本単元で目指す「深い学び」が実現している姿を以下のように捉える。

<本単元で目指す深い学び>

自身がバレーボールを楽しむための探究過程において、「する・見る・支える・知る」のそれぞれの関わり方と関連付けて技能を習得し、仲間と連携してボールをつないだり、一人一人の違いを認め合ったりしながら喜びを感じ、今後の学習や日常に生かそうとしている姿。

| <u>関わり方</u>  | 関わり方についての解説・評価規準   |
|--|--|
| <u>する</u><br>【知識・技能】<br>・レシーブ、トス、アタックなどの技能を活用し、意図をもってプレイしているか。<br>・技能の定着と状況に応じた技能の活用が見られるか | <p>【A】状況に応じて多様なプレイ（スパイク、フェイント、レシーブ、トス、状況に応じた返球等）を選択し、チームに貢献している。</p> <p>【B】基本的な技能（レシーブ・トス・アタック等）を安定して実行できる。</p> <p>【C】基本的な技能の実行に課題があり、安定したプレイが難しい。</p> |
| <u>みる</u><br>【思考・判断・表現】<br>・ゲームの流れを理解し、状況に応じた動きや判断ができていないか<br>・状況把握力・判断力・戦術の活用といった実践中に考える力 | <p>【A】相手や味方の動きを見て、適切なポジション取りやサポートができていない。</p> <p>【B】ある程度状況に応じて動くことができるが、判断の遅れがある。</p> <p>【C】状況を把握することが難しく、動きに一貫性がない。</p>                               |
| <u>支える</u><br>【主体的な態度】<br>・チームの一員として、他者を尊重し、協力する姿勢があるか<br>・チームへの貢献・相互理解・協力する姿勢、学びへの意欲      | <p>【A】他者の特性を理解し、声かけやサポートなど積極的にチームに関わっている。</p> <p>【B】基本的な協力姿勢があり、チームプレイに取り組んでいる。</p> <p>【C】チームとの連携や協力が不十分で、個人プレイに偏りがちである。</p>                           |
| <u>知る</u><br>【知・技、思判表、態度】<br>・バレーボールの特性や動きの意味、戦術の意図を理解しているか                                | <p>【A】技能や動きの意味を理解し、自分やチームのプレイを振り返って改善している。</p> <p>【B】基本的なルールや戦術の考え方を理解している。</p> <p>【C】理解が不十分で、プレイに活かせていない。</p>   |

<「する・みる・支える・知る」に対応したルーブリック評価>

## 4 全体計画（全12時間）

※ 別紙参照

3 単元構造図 全体計画（全12時間計画）

|                                 |                  |  |   |                                       |                              |  |                                      |                           |                                |   |                               |   |   |  |
|---------------------------------|------------------|--|---|---------------------------------------|------------------------------|--|--------------------------------------|---------------------------|--------------------------------|---|-------------------------------|---|---|--|
| 単元<br>の<br>目<br>標               | 知識及び技能           | 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる<br>インターネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。                  |   |                                       |                              |  |                                      |                           |                                |   |                               | <深い学びが実現している姿><br>自身がバレーボールを楽しむための探究過程において、「する・見る・支える・知る」のそれぞれの関わり方と関連付けて技能を習得し、仲間と連携してボールをつないだり、一人一人の違いを認め合ったりしながら喜びを感じ、今後の学習や日常に生かそうとしている姿。 |   |  |
|                                 | 思考力、判断力、表現力等     | 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。   |   |                                       |                              |  |                                      |                           |                                |   |                               |   |   |  |
|                                 | 学びに向かう力、人間性等     | 球技に自主的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとしている。   |   |                                       |                              |  |                                      |                           |                                |   |                               |   |   |  |
|                                 | 時                | 1 教室   | 2   | 3                                     | 4 教室                         | 5  | 6                                    | 7【本時】                     | 8                              | 9   | 10 教室                         | 11  | 12  | 授業づくりのポイント   |
| 課題学習の流れ                         |                  | 単元の見通し   | 現状把握と課題設定   |                                       | 探究テーマ設定                      | 課題解決に向けた練習   |                                      |                           | 課題再発見・解決学習                     | 探究テーマ振り返り                                   | 学びを生かす                        |   | ・コート内に各ポジションに応じた定位置を示す個人マーカーを活用し「自分の基本的な立ち位置」を意識できるようにする。立ち位置の自覚を促すことで、ボールを操作しないときの準備や、ゲーム展開に応じた素早いポジショニングの意識づけを図る。   |  |
| 学習内容                            |                  | 試しのゲーム・ルール決定・基礎技能  |   | 分析の仕方                                 | ボール操作しないときの動き                | 個の特性を生かしたチーム戦術   |                                      |                           | チーム戦術                          | 役割と作戦に応じた攻め方・守り方                            |                               |   |   |  |
| 学<br>習<br>の<br>流<br>れ           | ⑩                | 単元計画の確認  | スキルテスト<br>・レシーブ<br>・トス<br>・サーブ                        | 共生発問①<br>・誰もがバレーボールを楽しむためには何が必要ですか。   | 探究テーマ設定                      | 個人スキルアップ<br>・直上トス<br>・直上レシーブ<br>・アンダーサーブ<br>・定位置に戻る動き<br>・サポート、カバーの動き  |                                      |                           | チーム貢献プレイの共有                    | 個人スキルアップ<br>チーム練習<br>・パターン練習<br>・サポート、カバー練習 |                               |   | ・コートを9分割×4方向の36分割したゾーンに相手のどのような返球が自コートどこに落ちたのかを記録することによってチームの課題発見につなげる。<br>・自身のプレイを客観的に捉えるために「チーム貢献」の視点で映像をトリミングし記録・蓄積する。スパイクやレシーブといった直接的な技能の振り返りにとどまらず、ラリー中のポジショニングや声かけなど、ボールを持たない場面での動きへの理解を促す。 |  |
|                                 | ⑳                | ルールの提案   | ルール確認   | チーム練習                                 | 試しの分析<br>・攻撃組み立て<br>・落球ゾーン確認 | チーム練習<br>・分析結果を基にした課題解決学習  | 共生発問②<br>・チームワークを高めるにはどのような行動が必要ですか。 | チーム練習<br>・分析結果を基にした課題解決学習 | 共生発問③<br>・仲間のいいところはどこなところですか。  | チーム練習<br>・分析結果を基にした課題解決学習                   | チーム課題の確認<br>まとめのゲーム<br>【リーグ戦】 |   |   | ・自身とのプレイを客観的に捉えるために「チーム貢献」の視点で映像をトリミングし記録・蓄積する。スパイクやレシーブといった直接的な技能の振り返りにとどまらず、ラリー中のポジショニングや声かけなど、ボールを持たない場面での動きへの理解を促す。<br>・共生につながる「問い」を単元全体に位置付けた。技術的・戦術的な課題の解決を目指す戦術アプローチの学習過程を活用し、共生の視点に立った発問を通して、生徒一人ひとりの違いを認め合い、誰もがバレーボールを楽しむ姿に期待したい。 |
|                                 | ㉑                |  | 試しのゲーム<br><複数得点の確定><br>・3段攻撃<br>・ラリー<br>・審判によるフェアプレイ賞 | 課題発見<br>ゲーム<br>・試合映像撮影<br>・ローテーションの確認 | チーム課題設定                      | 【ゲーム】<br>・サーブはアンダーハンドサーブ<br>・触球回数は5回まで<br>・3段攻撃やラリーが続くと追加得点<br>・初アタックや、違う人同士で繋ぐと追加得点<br>【役割】<br>審判3～4名 映像1名 分析2名 |                                      |                           | 共生発問④<br>・ゲーム中の声掛けで大切なことは何ですか。 | 単元末レポートの作成                                  |                               |   |   |  |
|                                 | ㉒                | 探究シート作成  |   | チーム振り返り                               | チーム貢献プレイのトリミング               | 振り返り・片付け   |                                      |                           |                                |   |                               |   |   |  |
|                                 | ㉓                |  |   |                                       |                              |  |                                      |                           |                                |   |                               |   |   |  |
|                                 | 評<br>価<br>機<br>会 |  | 1   | 2                                     | 3                            | 4  | 5                                    | 6                         | 7                              | 8   | 9                             | 10  | 11  | 12   |
| 知                               |                  | ①  |   |                                       | ②                            |  |                                      |                           |                                |   | ②                             |   |   | 学習カード、観察   |
| 技                               |                  |  |   |                                       | ①                            |  | ②                                    | ③                         |                                |   |                               | ①②③   | ①②③   | 観察、動画  |
| 思<br>態                          |                  |  | ③   |                                       | ①                            |  |                                      |                           | ②                              | ②   |                               | ③   |   | 学習カード、観察   |
| 単<br>元<br>の<br>評<br>価<br>規<br>準 | 知                | ①技術や戦術、作戦には名称があり、それらをゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであること、技術はボール操作とボールを持たないときの動きに大別できることを理解している。<br>②運動観察の方法では、課題に応じて、練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることを理解している。 |   |                                       |                              |  |                                      |                           |                                |   |                               |   |   |  |
|                                 | 技                | ①ボールを相手側コートに空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。<br>②攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。<br>③味方のサポートやカバーリングができるポジショニングをとることができる。  |   |                                       |                              |  |                                      |                           |                                |   |                               |   |   |  |
|                                 | 思                | ①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えについて伝えている。<br>②提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。<br>③仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。                                     |   |                                       |                              |  |                                      |                           |                                |   |                               |   |   |  |
|                                 | 態                | ①仲間の挑戦や失敗を肯定的に受け止め、一人一人の違いを認められる励ましや賞賛の声かけをしようとしている。<br>②記録や審判、キャプテンなどの仲間と合意した役割に責任をもって取り組もうとしている。   |   |                                       |                              |  |                                      |                           |                                |   |                               |   |   |  |

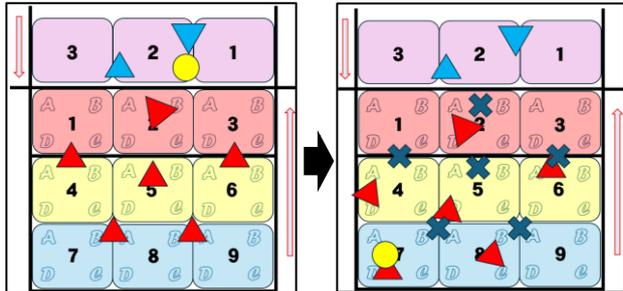
5 本時の学習（7/12時間）

(1) 指導目標

- ・ボール操作とボールを持たないときの動きに関連したプレイの判断に着目し、ラリーの中で味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。

【知識・技能】

(2) 展開

| 学習活動と予想される生徒の反応   | 指導上の留意点   |
|---|---|
| <p>1 W-UP を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レシーブ、トス、アタック、サーブ</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>&lt;前時までのボールを持たないときの動き&gt;</p> <p>&lt;相手のアタック時&gt;<br/>ブロックができるできないに関わらず、挑戦することで、相手にプレッシャーを与えることができる。</p> <p>&lt;攻撃に備える際&gt;<br/>前衛の人は、トスが上がりそうなときにアタックが打てるように助走をとったり、ネット際に近づいたりする必要がある。</p>   | <p>・前時までに学習した「定位置に戻る動き」を意識して動けるよう定位置マーカを用いて練習する。</p> <p>&lt;ネット際に返ってきそうな時&gt;<br/>定位置よりも全体的に前の方に動いて構える必要がある。</p> <p>&lt;分析シートより&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ラリーが続くようになってきた。相手のブロックに読まれることが多い。</li> <li>② レシーブ、トス、アタックの3段攻撃が増えてきた。</li> <li>③ レシーブがズレることがある。</li> </ol> |
| <p>↓</p>  |   |
| <p>学習内容の焦点化</p> <p>定位置はあるが、ボールの状況に合わせて前へ出たり横へ動いたりする必要がある。</p>   |   |
| <p>課題の明確化</p> <p>「1番ボールを落としている(場所)はどこですか」 → 10番(場外)</p>   |   |
| <p>→レシーバーの技能だけが問題か？</p> <p>→全員でそれを防ぐことはできないだろうか。</p> <p>→映像の共有（カバーをしていないもの）</p> <p>→どうすると全員でカバーできるかな？</p>   | <p>・場外へボールが落球している原因は、レシーバーの技能だけではないことに気付かせ、ボールへのカバーリングの意識に目を向けさせるようにする。</p>   |
| <p>【学習課題】 ボールを操作しないときの定位置は<u>ここ</u>でよいのだろうか。</p> <p>～バックゾーン・場外にボールがある時に着目して～</p>  |   |
| <p>3 ボールがバックゾーン・場外に飛んできた時の、味方の動きを確認する。</p> <p>バックゾーン</p> <p>&lt;いつ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手コート側からボールがネットを超えて字コートに入ってきた瞬間</li> </ul> <p>&lt;どこ(立ち位置)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール落下点側に寄る</li> </ul> <p>&lt;どのように&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボールにへそを向けるようにして <b>場外</b></li> </ul> <p>&lt;いつ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1触球した瞬間</li> </ul> <p>&lt;どこに&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール側に寄る。</li> </ul> <p>&lt;どのように&gt;</p> | <p>・スローボール(長さのある棒に固定したボール)を用いて、「いつ、どこに、どのように」動くのかを確認する。その際に、定位置からどれくらい動いているかを確認しながら指導を行う。</p> <p style="text-align: center;">&lt;定位置からの移動&gt;</p>   |

- ・ボールにへそを向けながら、いつでも構えられる準備をしておく。

#### 4 チーム練習・話し合いを行う

- ・実際にバックゾーンに投げ入れた時の動き方の確認をしよう。
- ・セッターはあまり動かない方がいいと思う。
- ・難しいボールはキャッチをして、しっかりセッターに返そう。

#### 5 ゲームを行う

- ・1チーム5分×2試合行う。
- ・ゲーム間に3分のチームタイムを設ける。

#### <ゲーム間のチームタイム様相>

##### ○パターンA○

- ・相手はアタックが上手だから、ブロック2枚いってもいいと思う。セッターとレフト、ライトのどちらかいけばよくないかな。
- ・その時に、守りの人数が減ってしまうからバランスよく定位置を変える必要があるね。

##### ○パターンB○

- ・間で落ちることが2回あったから、もう少し定位置を前にしよう。後ろは滞空時間が長いから、とにかくボールが返ってきた瞬間に動ける準備をしておこう。
- ・バックゾーンにボールがいったらみんなでそっち側に寄ろう。

##### ○パターンC○

- ・セットアップの時、アタック打つ人がばれているから、もう1人か2人、アタックを打つ構えしよう。
- ・いつでも打てるように準備したり、声をかけたりしようか。

#### 6 本時の学習課題に関して振り返る。

- ・私たちのチームは、レシーブのあとのコート内落球が多かったけれど、落ちる前に反応する意識が高まって前回よりもラリーが続いて面白かった。

→何を意識したのかな？

まずはボールから目を離さないことと体を向けること。そうすると自然に味方のカバーができる。

- ・定位置マーカを使い、いつ、どれだけ定位置からずれるのかを確認しながら練習に取り組むよう、声をかけていく。ボールを持たないときの動きの理解が難しい生徒には、味方が動いた後の空いた空間に着目させ、適切な位置取りができるよう個別支援を行っている。

#### <ゲームのルールについて>

##### ① 基本ルール

- ・サーブは1回目はアンダー 2回目は投げ入れで行う。
- ・ローテーションは、2回サーブが成功するか、サーブ権が相手から自分チームに移った場合に行う。
- ・触球回数は5回まで。
- ・キャッチを入れてもよいが連続キャッチは無し。
- ・壁や天井に当たっても続けてよいが、相手コートに返球時は無し。

##### ② 3-4 特別ルール

- ・3段攻撃は+1点
- ・違う人が触って返すと+1点
- ・初アタックは1点

- ・ボールを持たないときの動きは、サポートやカバーの時だけではなく、攻撃の準備や自チームのブロック時等、様々な瞬間があること確認し、相手のサーブ時以外は、「常に動き続ける」という意識が大切なことに気付かせる。

ボール操作とボールを持たないときの動きに関連したプレイの判断に着目し、ラリーの中で味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすることができる。【知識・技能】

#### 7 授業観察の視点

教師の学習課題の設定や問い、声かけ等の手立ては、ボールを持っていないときのカバーやサポートの動き方について理解を深め、技能を高めることに有効であったか。

## 8 参考文献

- (1) 鈴木 理・福原祐三著「みんなが主役になれるバレーボールの授業づくり」(大修館書店 2005)
- (2) ダニエルwミドゥラ著 高橋健夫監訳「チャレンジ運動による仲間づくり 楽しくできる体ほぐしの運動」(大修館書店 2000)
- (3) 三崎隆「これだけは知っておきたい『学び合い』の基礎・基本」(学事出版 2014)
  - ・富山大学人間発達科学部附属中学校「主体性の高まりをめざして-課題学習で学校をつくる-」(富山大学出版会 2009)
  - ・田村学「学習評価」(東洋館出版 2021)
  - ・田村学「深い学び」(東洋館出版 2018)
  - ・文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」(東洋館出版社 2018)
  - ・文部科学省国立教育政策研究所「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」(東洋館出版社 2020)
  - ・岐阜大学教育学部「戦術学習を中核としたゲーム領域の効果的な指導法の開発」(2013)
  - ・佐々木直基「視覚的フィードバックが運動スキル獲得に与える影響」(びわこ成蹊大学研究紀要,2010)
  - ・小野雄大ら「中学校の体育授業における学習者の学習観および学習方略の関連に関する研究」(体育学研究 2018)
  - ・関野智史「ネット型ゲームの授業計画 小中高の連携によるネット型ゲームの一貫指導の提案-バレーボールを軸として-」(大修館書店 2013)
  - ・高田彬成,森良一,細越淳二「これからの体育科教育はどうあるべきか」(東洋館出版 2023)
  - ・梅澤秋久「体育における『学び合い』の理論と実践」(大修館書店 2016)
  - ・鈴木直樹,藤本拓矢ら「体育授業の一人一台端末活用アイデア 60」(明治図書 2022)
  - ・奈須正裕,伏木久始ら「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実を目指して」(北大路書房 2023)